



Redash を使って経営ダッシュボードを作る (IRSME17013)

平成 29 年 12 月 12 日 原田長州

「Redash¹」というオープンソースソフトウェアを利用して経営ダッシュボードを作成してみよう。Redash は、データベースなどからデータを集め、視覚化するソフトである。

■ Redash の機能・特徴

1. データ抽出

データソースからデータを抽出することができる。抽出項目や条件の設定する問い合わせをクエリーと呼ぶ。クエリーは SQL 文で記述する。

クエリーは複数登録することができる。例えば販売データを対象とした場合には、日次、週次、月次の売上データや全体の合計、グループごとの合計、個人ごとの販売金額合計も表示することができる。また、これらの集計されたデータはエクスポートすることもできる。スケジュール機能があり、一定間隔で繰り返しデータを抽出することもできる。

2. 視覚化

取得したデータを折れ線グラフ・棒グラフ・ピボットテーブルなどにすることが可能である。また、ダッシュボード機能として複数のグラフを登録できるので一目で欲しい情報を閲覧することができる。メンバー間の共有がしやすくなるだろう。

3. 通知機能

データ抽出をした結果に対して、指定値と比較してメールやチャットに通知する機能も存在する。

■ Redash を利用するためには？

Redash はオンラインサービスとしても提供されており、30 日間試用することもできる。オンライン版は有料のサービスとして運営されている。

ソースコードはオープンソースとして公開されている²。アマゾンウェブサービスやグーグルコンピュータエンジンなどで使えるイメージ（ひな形）が公開されている。コンテナという機能を利用した Docker³を使用して環境構築も可能である。このような豊富な選択肢によって、

¹ <https://redash.io/>

² <https://github.com/getredash/redash>

³ <https://www.docker.com/>

平成 29 年 12 月 12 日

Redash を使って経営ダッシュボードを作る (IRSME17013)

短時間で試し始めることができた。

Redash のライセンス形態は、2 条項 BSD ライセンス⁴であり、商用利用が可能でソースコードの修正などが可能である。

■ 環境を構築して試用をする

今回は、実行環境構築をクラウドではなくノートパソコンで行った。OS は Windows 10 Pro で Docker for windows をインストールして Redash を動作させた。手順としては以下のようになった。詳細は Redash インスタンスの設定ページに記載されている⁵。データソースはグーグルスプレッドシートを利用した。

1. Git をインストール (設定済みであれば不要)
2. Git clone をしてデータをダウンロード
3. Docker for Windows をインストール
4. Docker コマンドで環境構築されサーバーが起動する
5. Redash にブラウザでログイン
6. グーグルスプレッドシートにデータを準備する
7. Google サービスアカウントを準備し JSON キーファイルをダウンロード⁶
8. データソース設定画面で指定
9. データ抽出確認、ビジュアライゼーション
10. ダッシュボード登録、スケジュール設定

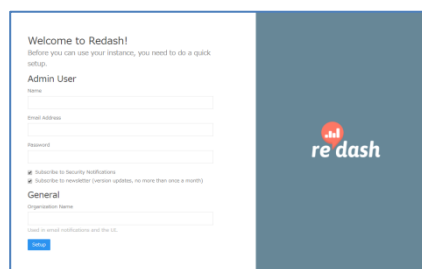


図 1 Redash 起動画面

	A	B	C
1	Date	time	
2		2017/9/21	160
3		2017/9/22	130
4		2017/9/25	144
5		2017/9/26	150
6		2017/9/27	138
7		2017/9/28	128
8		2017/10/2	135

図 2 データはグーグルスプレッドシートに記録されている

⁴ <https://github.com/getredash/redash/blob/master/LICENSE>
<https://redash.io/get-started/> には、”BSD-3” という記載があるが LICENSE には、2 条項の記載しかないため 2 条項が正しいと判断した。

⁵ <https://redash.io/help-onpremise/setting-up-redash-instance.html>

⁶ <https://redash.io/help/queries/query-google-spreadsheets.html>

平成 29 年 12 月 12 日

Redash を使って経営ダッシュボードを作る (IRSME17013)

■ 試用した感想



図 3 折れ線グラフで表示した状態

経営ダッシュボードとして利用するには、データを販売や生産などの数値を表示させる必要がある。Redash のような仕組みは、ビジネスインテリジェンス用ツールとして市販されている。仕組みそのものは、自社でも作成することも可能だろう。しかし、Redash のようなソフトを利用した方

が早いだろう。経営ダッシュボードとしての基盤として、無料ですぐに利用できる点に導入メリットがあると感じた。

■ まとめ

運用上の懸念点としては、SQL 文に不慣れなユーザーはクエリーを追加できないことになる。既存のものを修正するなどの応用から進めていくことになるだろう。

サービスを継続利用してもらうことを目指す企業の場合、ユーザーの継続率について全体をひとまとめとして把握するのではなく、契約年数ごとに継続率を見た方がわかりやすいことがある。このような特定の期間に契約した顧客の契約を追跡する調査も視覚化することが可能である⁷。

経営ダッシュボードを構築して、数値を視覚的に把握して、意志決定の補助として利用できることが確認することができた。(了)

⁷ <https://redash.io/help/query-examples-hacks/cohort-example.html>